

藤枝市の家計と財産の概要

～公会計制度にみる藤枝市の平成28年度決算（簡易版）～



公会計制度ってなに？

官庁会計（現金主義・単式簿記）と呼ばれる会計制度に加えて、発生主義・複式簿記などの企業会計を導入しようとする取り組みなのよ。



何のためにやるの？

現金の動きだけでなく、市の持っている資産や負債をひとまとめにして把握するために4つの財務書類を作って、中長期的な財政運営へ活用していくためなのよ。



4つの財務書類ってなに？
どんなものなの？

「行政コスト計算書」、「貸借対照表」、「純資産変動計算書」、「資金収支計算書」のことよ。それぞれの表には下記のとおり相関関係があるよ。



4つの財務書類の特徴と関係は？

表の名称	表の特徴
行政コスト計算書	1年間の行政サービスに費やされたコストの額を示したもの
貸借対照表	年度末における資産・財産とその調達財源（負債・純資産）の状況を示したもの
純資産変動計算書	貸借対照表の純資産の1年間の変動内容を示したもの
資金収支計算書	1年間の資金（現金）の収支の状況を示したもの

行政コスト計算書

経常費用
経常収益
臨時損失
臨時利益
純行政コスト

貸借対照表

資産	負債
うち現金預金	純資産

純資産変動計算書

前年度末残高
純行政コスト
財源
固定資産等の変動
本年度末残高

資金収支計算書

業務活動収支
投資活動収支
財務活動収支
前年度末残高
本年度末残高

+ 本年度末
歳計外現金残高

対象となる会計は？

連結会計

全体会計

【特別会計】

国民健康保険事業、簡易水道事業、公共下水道事業、
駐車場事業、農業集落排水事業、介護保険、後期高齢者医療

【企業会計】

水道事業、病院事業

【その他の団体】

藤枝市土地開発公社、㈱まちづくり藤枝、志太広域事務組合 等

一般会計等

一般会計・土地取得特別会計

4つの財務書類は
全体会計について
説明するよ

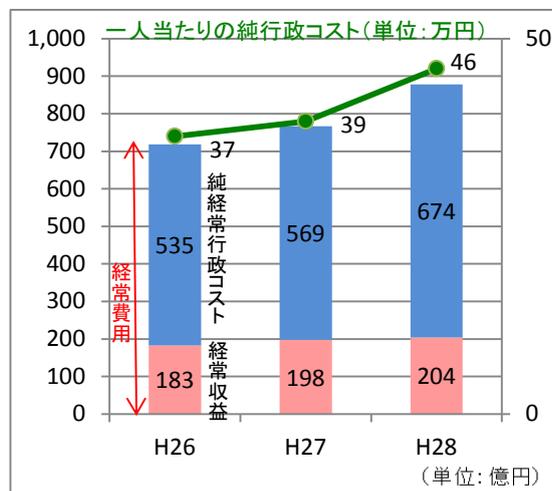


行政コスト計算書

PL

1年間の行政サービスを提供するためにかかったコストは878億円で、使用料や手数料などの利用者が負担する費用を差し引いた純経常行政コストは674億円となりました。

経常費用・・・878億円 ①	
人にかかるコスト (人件費:職員の給料や議員の報酬など)	154億円
物にかかるコスト (物件費:消耗品や委託料、減価償却費など)	249億円
その他のコスト (支払利息など)	27億円
移転支出的なコスト (補助金等、社会保障給付費、他会計繰出金など)	448億円
経常収益・・・204億円 ②	
使用料・手数料などの利用者負担	193億円
その他経常収益	11億円
純経常行政コスト(①-②)A・・・674億円	
臨時損失及び臨時利益 B・・・-億円	
純行政コスト(A+B)・・・674億円 ②	



経常収益 6億円増

財政調整基金利子など 6億円増

経常費用 111億円増

駅前一丁目8街区市街地再開発事業費補助金
下水道整備事業費、年金生活者支援臨時福祉給付金など
35億円増

【統一的な基準による変更点】

経常費用の増額のうち、減価償却費分43億円(一人あたり3万円)については、平成28年度から純資産変動計算書から行政コスト計算書に算入されることになりました。

貸借対照表

BS

藤枝市が持っている資産は3,618億円で、資産調達のため将来世代が負担する負債が953億円、これまでの世代が負担した純資産が2,665億円です。

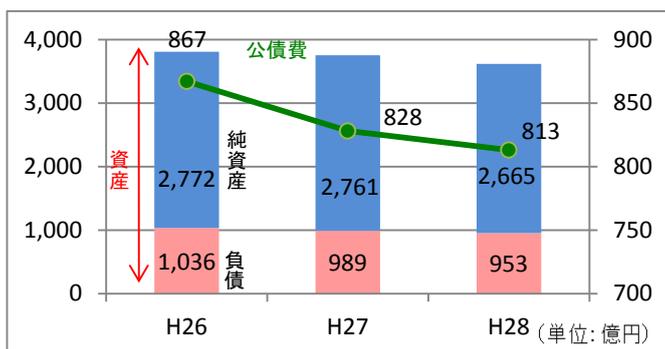
資産（現在保有している資産）		負債（将来世代の負担） 953億円	
固定資産	3,410億円	固定負債	859億円
有形固定資産	3,145億円	地方債	745億円
事業用資産	847億円	退職手当引当金	69億円
インフラ資産	2,266億円	その他	45億円
物品	32億円	流動負債	94億円
無形固定資産	—億円	1年以内償還地方債	68億円
投資その他資産	265億円	賞与等引当金	8億円
流動資産	208億円	その他	18億円
現金預金	54億円		
未収金	56億円		
基金	97億円		
その他	—億円		
繰延資産	1億円		
		純資産（これまでの世代が負担） 2,665億円	
		純資産合計	2,665億円
		固定資産等形成分	3,506億円
		余剰分（不足分）	△841億円
資産合計	3,618億円	負債・純資産合計	3,618億円

↑ 藤枝市が持っている財産

↑ 返済が必要な資産

↑ 財産の元となったお金の調達方法

↑ 自己資産



資産 131億円減

事業用資産 43億円減
インフラ資産 157億円減
流動資産（未収金、基金など）26億円増 など

負債 36億円減

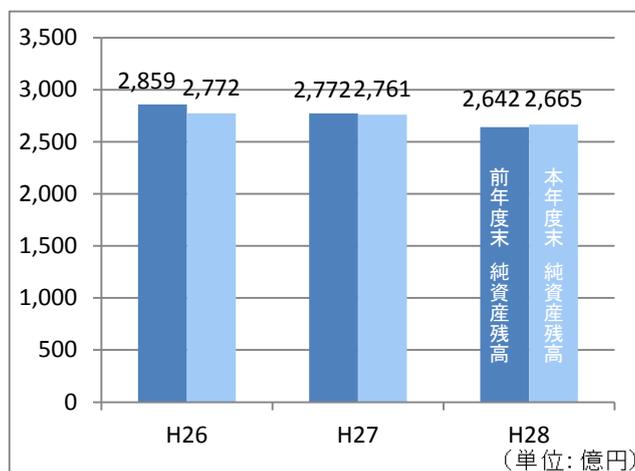
一般会計等 19億円減 病院事業 12億円減
公共下水道事業 4億円減 など

純資産変動計算書

NW

純行政コスト674億円に対して、税金等や国県等補助金などの財源が688億円で、差額が14億円とプラスになっています。当年度の行政サービスを提供するためにかかったコストが当年度の財源で賄えたこととなります。

平成27年度末純資産残高・・・A	2,642億円
純行政コスト(△)・・・B	△674億円
財源・・・C	688億円
税金等	382億円
国県等補助金	306億円
その他の変動・・・D	9億円
平成28年度末純資産残高 (A+B+C+D)	2,665億円



※平成28年度決算分から「統一的な基準」により作成しているため、純資産変動計算書の平成27年度末純資産残高と平成28年度前年度末純資産残高に差額があります。

資金収支計算書

CF

業政運営にかかる資金収支は、物件費等支出や基金積立などの増額により4億円の資金減となっています。
 基礎的財政収支がプラス8億円になりました。

基礎的財政収支＝業務活動収支(支払利息支出を除く)91億円＋投資活動収支△83億円

業務活動収支

業務活動支出 783億円 (人件費、物件費、支払利息、 社会保障給付費など)	業務活動収入 887億円 (税込、国県等補助金、使用料など)
臨時支出 一億円 (災害復旧事業費など)	
業務活動収支 ① 104億円	

投資活動収支

投資活動支出 114億円 (固定資産の取得、基金積立、 出資や投資、貸付金など)	投資活動収入 31億円 (基金の取り崩し、貸付金の回収、 国県から投資にかかる補助金など)
	投資活動収支 ② 83億円

財務活動収支

財務活動支出 84億円 (地方債の償還)	財務活動収入 59億円 (地方債の発行)
	財務活動収支 ③ 25億円

平成27年度末資金残高	58億円
+	
平成28年度資金収支	△4億円
業務活動収支①	104億円
投資活動収支②	△83億円
財務活動収支③	△25億円
↓	
平成28年度末資金残高	54億円

業務活動収支 5億円減

税込等、国庫等補助金収入など 55億円増
 物件費等支出など 60億円増

投資活動収支 36億円減

基金取崩しなどの収入 5億円減
 公共施設等整備費、基金積立などの支出 31億円増

財務活動収支 26億円増

市債発行収入など 9億円増
 地方債等償還支出など 17億円減

まとめ

平成28年度は減価償却等により資産は減少しましたが、市債(借金)は着実に減少しており、
 基礎的財政収支もプラスであることから、昨年度に引き続き、
 藤枝市の財政は**バランスのよい健全な財政運営**を保っていることがわかります。



藤枝市の財政状態は
 健全で安心です！

藤枝市役所 財政経営部財政課

～入るを量りて出ずるを制す～

〒426-8722

静岡県藤枝市岡出山1-11-1

電話：054-643-3234 FAX：054-643-3604

E-mail：zaisei@city.fujieda.shizuoka.jp

公会計についてもっと詳しく知りたい方は詳細版の資料もありますので、是非ご覧下さい。
 【藤枝市ホームページ】<http://www.city.fujieda.shizuoka.jp> 「市政情報」ー 財政(予算・決算ほか)